

# タマネギ

## 〇管内の生産状況（2022年）

・栽培面積 1,080ha ・出荷量 30,496t ・生産者戸数 132戸

### \* 栽培品種の特徴 \*

#### SN-3

極早生品種であり、8月上旬～8月下旬まで出荷します。貯蔵性はありませんが、玉揃いが良く、肉質が柔らかくみずみずしい品種です。

#### 北はやて2号

早生品種であり、8月中旬～9月上旬頃まで出荷します。もともと辛味が少なく生食向きのタマネギで、貯蔵性はありませんが、多目的に使うことができます。

#### バレットペア

早生品種で、8月中旬～9月上旬まで出荷します。辛味が少なく、サラダなどの生食に適しており、球形は豊円球です。

#### オホーツク222

早生品種オホーツク1号の改良型で、規格外品の発生が少なく玉揃い・球色ともに優れた品種です。辛味が少なく貯蔵性・食味ともに良好です。



#### 北もみじ2000

早生品種オホーツク222の後に出荷される中晩生品種です。きわめて貯蔵性が高く、球形は地球型です。

### \* 生産・出荷の取り組み \*



J A管内は、道内有数の産地です。F1種\*のタマネギを生産しており、20kg 詰めダンボールで全国31カ所の市場や量販店に向けて、8月～翌年4月までの長期間出荷を行っています。

また、減農薬栽培タマネギの生産・組織化を進めるとともに、栽培技術の確立に努めており、道の認証制度である「YES! clean」を取得し、生産しているものもあります。

※「F1」とは、「一代雑種」や「交配種」ともいわれる、一代に限って優秀な種のことです。これは、種苗会社が品種や個性の違ったものをかけ合わせて作った種で、両親それぞれの良いところを受け継いでいます。

そのため、収量が高い上に、病気に強く、品質にむらがないので、色々な野菜づくりに活かされており、現在つくられているほとんどのタマネギも、この「F1」種が栽培されています。



#### 月別出荷状況

